

「昔はぼちり大きな目だったのに、年とともに目が小さくなった」「高い位置にある信号が見にくくなった。上の物を見るときは、顎を上げてみないと見づらい」

「まぶたが重く開けにくい、疲れて肩をこる」。このような症状をお持ちの人は、まぶたが開きにくくなる眼瞼下垂（がんげんかすい）かもしれません。眼瞼下垂はまぶたがたれ下がった状態のことで、まぶたが瞳孔をふさぐと視野が狭まり非常に見づらい状態となり、視力低下や眼精疲労、肩こり頭痛などに苦しむことがあります。原因の多くは、年齢に伴う内部の筋組織の緩みによって生じる腱膜性眼瞼下垂です。また、子供に起こる先天性のものや、大人に突然起こるものは、早期診断と治療が必要な場合があるので、注意が必要です。眼瞼下垂に対しては手術が効果的で、まぶたがすっきり上がるので見えにくさが改善されます。

また、「いつも涙で目が潤んで充血している」「目に何か入っているような感じがある」という症状でお悩みの



あさい・ともこ 平成16年大阪市立大学医学部卒業。同大附属病院、大阪府立急性期総合医療センター勤務などを経て、24年大阪大学眼科。28年同大学大学院医学系研究科修了。同年8月あさいアイクリニック開設。医学博士。日本眼科学会認定専門医。

手術で見えにくさ改善も

人の中には、内反症（逆さまつけ）という病気の方がいます。これは、下まぶたが眼球側に巻き込むような形で内に向くので、まつげも内に反転し、黒目（角膜）や白目（結膜）にあたってチクチクしたり、涙が出たりします。ひどい人は、角膜や結膜の傷が慢性化して角膜が白く濁り、視力が下がってしまつこともあります。月1回程度眼科でまつげを抜いてもらっているという人もいますが、抜くときに痛みますし、抜いたまつげはまた生えてきて、増えてくることもあります。症状がひどい場合は、まぶたの内向きを治すために、手術も可能です。眼瞼下垂と同じく、まぶたを支える組織を正常に機能するように改善します。これで涙や異物感が消え、通院回数も劇的に減らすことができます。

眼瞼下垂・逆さまつけ